

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

夢、若しくは希望の残骸 (2つのB/Sに想う)

最近、2つの、見るも無惨なバランスシート(以下B/S)を見る機会に出会った。皆さんが見てどう思うか分からないが、その2つのB/Sの概要を下記に転記してみる(金額単位:百万円)。

【A社】

現預金	8	流動負債	21,734
流動資産	141	固定負債	2,101
固定資産	8,539	資本金	295
繰延資産	3	欠損金	15,439
計	8,692	計	8,692

【B社】

現預金	143	流動負債	9,737
流動資産	37	固定負債	9,042
固定資産	15,915	資本金	100
繰延資産	1,165	欠損金	1,618
計	17,261	計	17,261

事前に想像していたより遙かにひどい内容に、いろいろなB/Sを見てみた私でさえ唖然とせざるを得なかった。そして正直、こんな内容で「よくここまで存続してきたな(いるな)」と思わざるを得なかった。金融債務など返済出来なくても、日々の営業資金さえ手当てできれば会社は存続できるという事実を再認識すると共に、裏には大口債権者である銀行の事情もあるのではと推測せざるを得なかった。

A社とB社、業種は違うがいずれも会員から少なくないお金を預かって事業を展開した会社である。負債の内、短期は金融債務、長期は預託金債務とお考えいただいてよいが、当然にして長期債務は云うに及ばず短期債務も返済は全く不可能な状態にある。

一体、この債務をどのように処理するのだろうか。経営者はどう考えているのだろうか。誰もそう思うだろうが、しかし、ここまで来ると会員という名の債権者は別として、融資した銀行は回収を断念しているのかもしれない。

主要資産である固定資産も時価ベースで評価すれば、おそらく10分の1以下に下落している。とすれば、この2社の債務者区分は「実質破綻先」と見て間違いはない。銀行は既に無担保部分につい

て100%貸倒引当金を積んでいる筈である。大型倒産が起きると、主債権者である銀行は「今期決算に影響はない」とコメントを出すのが通例となっているが、それはこのように既に貸倒引当金を積んで破綻への備えができているからだ。

この2社への備えも出来ているか、出来つつあるとみていい。

それにしても、何故このような惨状となってしまったのだろうか。

この2社を立ち上げたのは、ご多分に漏れずバブル真っ盛り頃である。経営者も融資した銀行も、そして募集に応じた会員も、今思えば皆夢のようなことを考えていた。かく言う私も例外ではないが、会員となって施設を利用する姿に思いを馳せてのぼせ上がっていた。云ってみれば、一時の陶酔的熱狂の中にいたのだが、その自覚が全くなかった。そして、夢から醒めても何となくダラダラと時を過ごしてしまった。

一昨年、約90のゴルフ場が民事再生法等を申請し破綻した。数字は掴んでいないが、おそらく昨年もそれ位の数のゴルフ場が破綻しているのではないだろうか。それらのB/Sを取り寄せて見れば、多分この2社と同じ様な数値が並んでいるだろう。

一旦出来上がってしまったこのようなB/Sを良い方向に修正して行くのは極めて困難である。借入金や預託金で作った資産が、それに見合ったキャッシュを生まないからだ。結果として、資本は毀損し過剰な債務を一向に減らない。解決法は判っていても債務を消去することができないのだ。そうして時が過ぎ、銀行に「備え」ができた段階で順次倒れることになる。

これは、私達の夢や希望、あるいは欲望の当然の結果なのだろうか。

人間、誰も夢をもち希望をいだく。それは人間だけに許された大いなる力である。狂と名付けてよいような夢や希望が新しい技術・新しい商品を創り出す。だから未来も将来も夢や希望の大きさに懸かっていると云っていい。

しかし、その夢や希望は時として無謀な営みをも引き起こす。この2社のB/Sを見たとき唖然としたが、それは私達小さな人間の夢、若しくは希望の残骸なのかもしれない。そして残骸は自らの手で葬るしかない。

Weekly Fax Report

《複製・転載等のご連絡下さい》

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

2004.1.24(第395号)

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp